

科目名	アドバンスレッスン2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	山路浩加、小澤悠生	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 ヴォーカリストの基本となる声帯・身体の使い方を考察しながら自分自身でコントロールし、表現するスキルを習得していく。										
【科目の概要】 デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】 A. 安定した声を身につけるために、自分の身体の使い方を知る。 B. 声の種類4種と、その声を実際に使用しているアーティストを把握する。 C. ベーシックレッスン/アドバンスレッスン「ヴォーカルテクニック」の授業で学んだ実際の楽曲4曲を発声の観点から分析できる。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	安定した声を身につける ために、自分の身体の使 い方を知る		自分の身体の使い方を知 る			到達目標Aについてさら なる努力が必要				
到達目標 B	声の種類4種と、その声 を実際に使用している アーティストを把握する		声の種類2種と、その声 を実際に使用している アーティストを把握する			到達目標Bについてさら なる努力が必要				
到達目標 C	ベーシックレッスン/ア ドバンスレッスン 「ヴォーカルテクニッ ク」の授業で学んだ実際 の楽曲4曲を発声の観点 から分析できる		ベーシックレッスン/ア ドバンスレッスン 「ヴォーカルテクニッ ク」の授業で学んだ実際 の楽曲2曲を発声の観点 から分析できる			到達目標Cについてさら なる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	青木千春	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 発声法や、ヴォーカルテクニック、音域拡大を目指すトレーニング、表現力を増すトレーニング、リズム感を養うトレーニングに加えて、自分の声の特性を理解した上であらゆるジャンルと現場に適用できる実践力となるボーカリストを育成する。										
【科目の概要】 デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】 A. minor Keyの1オクターブの範囲内において、音程のコントロールができる。 B. ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて3種類の基礎的なテクニックを組み合わせ実践できる。 C. 本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	minor Keyの1オクターブの範囲内において、音程のコントロールが正確にできる		minor Keyの1オクターブの範囲内において、音程のコントロールが正確にできる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて3種類の基礎的なテクニックを組み合わせ実践できる		ビブラートやしゃくり、フォールダウンなどにおいて1種類の基礎的なテクニックを組み合わせ実践できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	本番環境において、授業で学んだ技術の安定感がある		授業で学んだ技術の安定感がある			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン 2			年度	2025
英語表記		Advanced lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	課題曲①の分析	曲解析ができる	1 曲アナライズ	曲解析の技術	3	
			2 出だし学習	目標設定ができる		
			3 フレーズ終了	出だしの安定性		
2	出だし音習得	フレーズが取れる	1 ブレス種類	フレーズの完結性	3	
			2 ブレス位置	ブレスの多様性		
			3 表情トレーニング	ブレス位置の特定		
3	ブレスの学習	ブレス技術習得	1 リズム理解	表情付けの基本	3	
			2 しゃくり体験	歌に感情を込める		
			3 フォール技術	授業での発表力		
4	表情の付与	表情豊かに歌	1 声門技術	リズム感の強化	3	
			2 アフター歌唱	リズムの精確さ		
			3 食い気味歌唱	音の強弱の理解		
5	授業内発表	発表スキル向上	1 曲アナライズ	しゃくりの実践	3	
			2 ミドル切替	フォールドダウン応用		
			3 ヘッド切替	エッジボイス習得		
6	リズムコントロー	リズム修正習得	1 ダイナミクス理解	声門アタックの精度	3	
			2 コントロール体得	息抜きのテクニック		
			3 復習成果確認	表現力の拡充		
7	エッジボイス感	技術体感習得	1 試験準備	リズムキープの習得	3	
			2 パフォーマンス評価	タイミングの適正化		
			3 課題選定	リズム応用の技術		
8	声門テクニック	息技術を習得	1 目標設定	授業での発表自信	3	
			2 音色分析	曲理解の深化		
			3 発音クリア	中声域の制御		
9	声門リズム取	声門技術習得	1 リズム精度	高声域への移行	3	
			2 息使い	ダイナミックレンジ		
			3 ダイナミック発声	表現のダイナミクス		
10	授業内発表	発表力を高める	1 感情表現	成果の自己認識	3	
			2 曲感理解	復習による確認		
			3 表現力向上	試験への自信		
11	課題曲②の分析	曲目的設定力	1 テクニック練習	曲の全体理解	3	
			2 歌唱表現力	ミドルからヘッド		
			3 演出理解	ダイナミクス調節		
12	ヴォイス切替	声変更ができる	1 ステージ発表	トレーニング成果	3	
			2 リズム強化	前期後期の復習		
			3 しゃくり習得	成果への理解		
13	ダイナミクス習得	ダイナミクス習得	1 フォール感覚	期末試験の準備	3	
			2 エッジトレーニング	全体理解の深化		
			3 声門コントロール	中声と高声の調和		
14	全トレーニング復	全技術の復習	1 ブレスマネージメント	音の強弱の使い分け	3	
			2 アタック練習	復習による理解の強化		
			3 タイミング調整	期末試験への自信が持てる		
15	期末試験	試験準備ができる	1 授業発表	成果の全体認識	3	
			2 声域操作	期末試験に向けた技術の総合		
			3 ダイナミクス変化	期末試験の準備をふまえた歌唱ができる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等

科目名	アドバンスレッスン 2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	青木千春	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 合唱曲を題材とし、ハモリの音感や曲全体の構成を考えながら、ヴォーカリストとしてのスキルの向上を目指す。										
【科目の概要】 デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】 A. コードネームに沿って、メロディーから1度、3度、5度でのハモリの音感を身につける。 B. 他パートの音につられる事がない様に歌う事ができる。 C. 配布された譜面に関して、16小節の読譜ができる。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	コードネームに沿って、 メロディーから1度、3 度、5度でのハモリの音 感を正確に身につける		コードネームに沿って、 メロディーから1度、3 度、5度でのハモリの音 感を身につける			到達目標Aについてさら なる努力が必要				
到達目標 B	他パートの音につられる 事がない様に歌う事がで きる		課題曲を歌うことがで きる			到達目標Bについてさら なる努力が必要				
到達目標 C	配布された譜面に関し て、16小節の読譜がで きる		配布された譜面に関し て、8小節の読譜がで きる			到達目標Cについてさら なる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次		必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習
担当教員	青木千春		教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター		
【科目の目的】 幅広いジャンルの課題曲をバンドアンサンブルと共に学習することによって、バンドアンサンブルと合唱をより良くするために考察、周りの音をよく聴きながら歌い、最良の合唱となるためのコミュニケーション能力も体得する										
【科目の概要】 デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】 A. 個々が好き勝手に歌う事ではなく個性を抑えつつ他者と協力し合いながら共に一つの楽曲を作り上げる事ができる。 B. ダイナミクスや声質、ウィスパーヴォイスや発音等において、4種類の声質を考えることができる。 C. 課題曲4曲を授業内で披露する事ができる。										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている				レベル2 ふつう				レベル1 要努力	
到達目標 A	個々が好き勝手に歌う事 ではなく個性を抑えつつ 他者と協力し合いながら 共に一つの楽曲を作り上 げる事ができる				他者と協力し合いながら 共に一つの楽曲を作り上 げる事ができる				到達目標Aについてさら なる努力が必要	
到達目標 B	ダイナミクスや声質、 ウィスパーヴォイスや発 音等において、4種類の 声質を考えることができ る				ダイナミクスや声質、 ウィスパーヴォイスや発 音等において、2種類の 声質を考えることができ る				到達目標Bについてさら なる努力が必要	
到達目標 C	課題曲4曲を授業内で披 露する事ができる				課題曲2曲を授業内で披 露する事ができる				到達目標Cについてさら なる努力が必要	
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、試験60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表20%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点20%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	Gt:早川治 / Key:藤田美保	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】										
12種類のキーにおいてコード系楽器の基本的な演奏技術を習得する。。その後、楽譜の読解能力を向上させ、音感やハーモニー感覚を発展させるために、関連する実践的な音楽知識やコードについても習得する。										
【科目の概要】										
デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】										
A・ 1 2 種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける。 B・ 1 2 種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる。 C・ 1 2 種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける。										
【授業の注意点】										
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう		レベル1 要努力					
到達目標 A	1 2 種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける		6 種類のKeyにおいて、コード系楽器の基礎的な奏法を身につける		到達目標Aについてさらなる努力が必要					
到達目標 B	1 2 種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる		6 種類のKeyにおいて、楽譜を読む力をつけたうえで、音感やハーモニー感覚を向上させる		到達目標Bについてさらなる努力が必要					
到達目標 C	1 2 種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける		6 種類のKeyにおいて、コードなど実践に役立つ音楽的知識を身につける		到達目標Cについてさらなる努力が必要					
【教科書】										
特になし										
【参考資料】										
必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】										
評価基準はルーブリック評価に基づき、1 4 回目または1 5 回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	小野正利・早川咲・柿崎光・青木千春	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】										
オリジナリティーの追求とビジネススペースでの制作発表活動についての考察を深め、社会人までの道筋を具現化してゆく。										
【科目の概要】										
デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】										
A. 課題曲 4 曲に関して、基礎的歌唱力を体得している。 B. 課題曲 4 曲に関して、ヴォーカリストとしての自己を発信できる状態を作っている C. 卒業後を想定して、歌唱法に、再現性と継続性が見込める。										
【授業の注意点】										
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の 4 分の 3 以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	課題曲 4 曲に関し て、基礎的歌唱力を 体得している		課題曲 2 曲に関し て、基礎的歌唱力を 体得している			到達目標Aについてさ らなる努力が必要				
到達目標 B	課題曲 4 曲に関し て、ヴォーカリスト としての自己を発信 できる状態を作っ ている		課題曲 2 曲に関し て、ヴォーカリスト としての自己を発信 できる状態を作っ ている			到達目標Bについてさ らなる努力が必要				
到達目標 C	卒業後を想定して、 歌唱法に再現性と継 続性が見込める		レコーディングで使 う歌詞カードと譜面 を書ける			到達目標Cについてさ らなる努力が必要				
【教科書】										
特になし										
【参考資料】										
必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】										
評価基準はルーブリック評価に基づき、試験40%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、授業内発表30%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、平常点30%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	河原レオ・南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】										
4つの異なる音楽ジャンルに合わせた作曲技術を学び、さらに編曲技術を習得する。DAWデータ内の任意のトラックに少なくとも1つのエフェクトを適用し、オーディションやコンテストに参加することで、さらにスキルアップを目指す。										
【科目の概要】										
デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】										
A・4種類のジャンルに合わせた作曲の技術を身につけること B・4種類のジャンルに合わせた編曲の技術を身につけること C・DAWデータの任意のトラックに最低2種類のエフェクトを適用し楽曲を提出できる										
【授業の注意点】										
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	4種類のジャンルに 合わせた作曲の技術 を身につけること		2種類のジャンルに 合わせた作曲の技術 を身につけること			到達目標Aについてさ らなる努力が必要				
到達目標 B	4種類のジャンルに 合わせた編曲の技術 を身につけること		2種類のジャンルに 合わせた編曲の技術 を身につけること			到達目標Bについてさ らなる努力が必要				
到達目標 C	DAWデータの任意のト ラックに最低2種類の エフェクトを適用 し楽曲を提出できる		DAWデータの任意のト ラックに最低1種類の エフェクトを適用 し楽曲を提出できる			到達目標Cについてさ らなる努力が必要				
【教科書】										
特になし										
【参考資料】										
必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】										
評価基準はルーブリック評価に基づき、14回目または15回目にて授業内発表を行い、その巧拙を判定する。 60%(知識及び技能のほかに思考・判断・表現を評価する)、 授業後に提出するレポートによる平常点40%(主体的に学習に取り組む態度を評価する)										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名	アドバンスレッスン 2							年度	2025	
英語科目名	Advanced lesson 2							学期	後期	
学科・学年	ミュージックアーティスト科 ヴォーカリストコース 2年次	必／選	選	時間数	240	単位数	8	種別※	実習	
担当教員	南慶樹	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ミュージシャン、作編曲家、 プロデューサー、ディレク ター			
【科目の目的】 楽譜を読むことを中心とした基礎訓練を行い、音程・メロディー・ハーモニーなどの読譜を行う事が出来るスキルを習得する。										
【科目の概要】 デビューをめざしてヴォーカリストとしてのスキルをさらにアップ。オリジナリティを磨くトレーニングを継続し、音楽業界で通用する知識とスキルを実践的に身に付けます。										
【到達目標】 A. 半音と全音の聴き取りができる B. 講師指定のメロディを採譜できる C. 講師指定のハーモニーを採譜できる										
【授業の注意点】 授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。公共交通機関の影響によるやむを得ない理由をのぞき遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。										
評価基準＝ルーブリック										
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう			レベル1 要努力				
到達目標 A	半音と全音の聴き取りが適切にできる		半音と全音の聴き取りがややできる			到達目標Aについてさらなる努力が必要				
到達目標 B	講師指定のメロディを適切に採譜できる		講師指定のメロディをやや採譜できる			到達目標Bについてさらなる努力が必要				
到達目標 C	講師指定のハーモニーを適切に採譜できる		講師指定のハーモニーをやや採譜できる			到達目標Cについてさらなる努力が必要				
【教科書】 特になし										
【参考資料】 必要に応じて、プリントを配布する										
【成績の評価方法・評価基準】 評価基準はルーブリック評価に基づき、授業内課題、レポートなどで行う。										
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。										

科目名		アドバンスレッスン2			年度	2025
英語表記		Advanced lesson 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	音程理論	課題の理解	1 楽譜の基礎	楽譜読解の基礎ができる	3	
			2 音程の理論	音程理論の理解ができる		
			3 楽典エクササイズ	楽典基本エクササイズができる		
2	音程理論	エクササイズ	1 楽譜読解力	音符と休符を識別できる	3	
			2 音程認識	完全・長短音程を認識		
			3 リズムトレーニング	基本リズムを演奏できる		
3	音程理論	エクササイズ	1 五線譜の書き方	五線譜に音符を書ける	3	
			2 完全・長短音程	音階を正確に歌える		
			3 音階の構築	簡単な和音を弾ける		
4	音程理論	エクササイズ	1 音符と休符	音符と休符を意識して歌える	3	
			2 和音の構成	リズムパターンを作れる		
			3 即興演奏	簡単な即興演奏ができる		
5	音程理論	エクササイズ	1 クレッシェンド	ダイナミックマークを理解	3	
			2 転調の理解	転調の基礎がわかる		
			3 メロディ作成	メロディーを作曲できる		
6	音程理論	エクササイズ	1 アーティキュレーション	アーティキュレーションができる	3	
			2 調性の感覚	調性の理解が深まる		
			3 コードの進行	コード進行を弾ける		
7	音程理論	エクササイズ	1 ダイナミクス	音楽表現を豊かにできる	3	
			2 相対音感	相対音感の基礎がわかる		
			3 アンサンブル	アンサンブルの基礎がわかる		
8	音程理論	エクササイズ	1 フレーズの分析	フレーズ分析ができる	3	
			2 耳コピ練習	基本的な耳コピができる		
			3 指導法の展開	音楽教育法を知る		
9	音程理論	エクササイズ	1 リズム感の強化	リズム感が養える	3	
			2 音色の識別	音色を識別できる		
			3 スケールの実践	実用的なスケールが弾ける		
10	音程理論	エクササイズ	1 テンポの変化	テンポ変更ができる	3	
			2 即時反応	反応速度が上がる		
			3 表現力向上	表現力が向上する		
11	音程理論	エクササイズ	1 音楽理論の応用	理論知識を実践できる	3	
			2 アレンジメント	アレンジメントができる		
			3 演奏技術	演奏技術が向上する		
12	音程理論	エクササイズ	1 運指練習	正確な運指ができる	3	
			2 聴音練習	聴音スキルが向上する		
			3 インターバル	インターバルがわかる		
13	音程感覚向上	課題の理解	1 ソルフエージュ	ソルフエージュができる	3	
			2 創作活動	自分の曲を作れる		
			3 音楽の歴史	音楽の歴史がわかる		
14	音程感覚向上	エクササイズ	1 楽器の知識	楽器の知識が増える	3	
			2 発声練習	発声技術が向上する		
			3 音程の変化	音程の変化を聴き分ける		
15	音程感覚向上	エクササイズ	1 演奏表現	演奏表現が豊かになる	3	
			2 大人数ハーモニー	大人数ハーモニーの音がわかる		
			3 今後への展望	ソルフエージュカアップについて訓練法がわかる		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等